

この図鑑の見方

この図鑑では、江の島の海岸の浅瀬で見られる生き物のうち、魚を除く主な動物（無脊椎動物）を紹介しています。無脊椎動物とは、背骨（脊椎）をもたない動物のことです。

①大きなグループの名前

この図鑑では、海岸動物を5つの大きなグループに分けて紹介しています。

1. イソギンチャクのなかま（刺胞動物）
2. 貝のなかま（軟体動物）
3. エビ・カニのなかま（節足動物）
4. ヒトデ・ウニ・ナマコ（棘皮動物）
5. その他のなかま（海綿動物、扁形動物など）

④種名（和名）

遺伝子や姿形がよく似た生物をまとめた、国内共通の名前です。

⑤種の解説

その動物種を見分けるときに参考になるポイントや、生態（暮らし方）の特徴が書いてあります。

②大見出し

大きなグループのなか、さらにいくつかのグループに分かれる場合には、小さい方のグループ名がここに書かれます。

③大きなグループの正式な名前

①のグループ名には、分類学上の正式な名前が別にあります。少し難しい名前なので、ここに小さくのせてあります。

⑦潮間帯の図

⑧のデータ欄に書かれている「上中下」の説明です。

- 上：潮間帯の上部、中：潮間帯の中部、下：潮間帯の下部、下：タイドプール
- を表します。タイドプール（潮だまり）とは、潮が引いても岩場のくぼみに海水が残る場所のことです。

⑧データ欄

その動物種の体の大きさ、生息環境などのデータです。

大きさ 足盤径 3cm 環境 南/上中/岩の側面や下面 ☆☆

体の大きさ

体長、全長、甲の長さなど、種によって測り方がちがいます（海岸動物の体の見方→p.10-13）。

生息環境

江の島の中での、その種が見られる場所と環境の情報です。
●「西・東・南」……江の島のどのエリアかを示します（江の島の地図→p.4-5）。
●「上中下」……潮間帯における位置です。右ページの「潮間帯」の図に説明があります。
●「岩場」「砂れき」など……その動物のいる、周りの環境を示しています。

イソギンチャクのなかま

イソギンチャクのなかま①

刺胞動物
刺胞という毒針のカプセルをもち、獲物をつかまえて、身を守ったりします。サンゴやクラゲもこのなかまにふくまれます。



ハネウミヒドラ
(ハネウミヒドラ科)
大きさ 群体の高さ 20cm 環境 南/上中/岩や石の上 ☆



イソバナビ
(イソバナ科)
大きさ 群体の高さ 5cm 環境 南/上中/岩や石の上 ☆



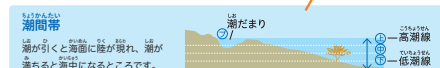
ヨロイイソギンチャク
(ウメボシイソギンチャク科)
大きさ 足盤径 4cm 環境 西・南/上中/岩のすき間 ☆☆☆



ミドリイソギンチャク
(ウメボシイソギンチャク科)
大きさ 足盤径 4cm 環境 西・南/上中/岩のすき間 ☆☆☆

⑥動物の写真

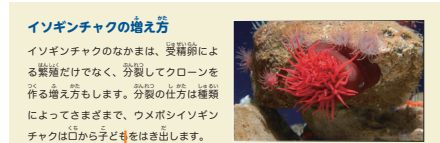
多くの写真は、実際にその動物が見られる場所で撮られています。小さくて顕微鏡で見えるような動物、自然下では体の形が見えにくい動物などは、白や黒の背景で撮影されていることもあります。



ヒメイソギンチャク
(ウメボシイソギンチャク科)
大きさ 足盤径 1cm 環境 西・南/上中/岩のすき間や石の下 ☆



ウメボシイソギンチャク
(ウメボシイソギンチャク科)
大きさ 足盤径 3cm 環境 南/上中/岩の側面や下面 ☆☆



⑨ひとことコラム

江の島の海岸動物に関する、さまざまな豆知識を紹介します。このほか、江の島の海岸動物を調査観察しながら知ったこと、考えたことなどをつづった1ページ大のコラムもあります（p.19, p.39 など）。

見つけやすさ

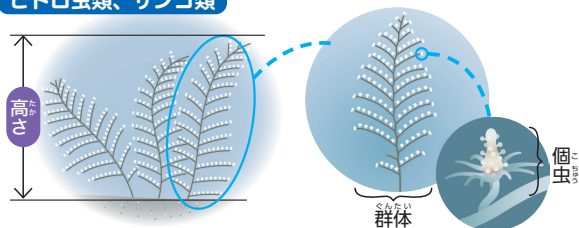
江の島での見つけやすさです。☆が多いほど見つけやすい種で、赤い★は、江の島ではめったに見られないめづらしい種です。

かいがんだうぶつ からだ み かた 海岸動物の体の見方①

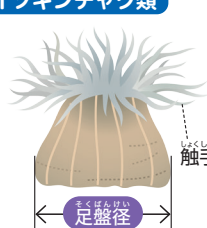
かいがんだうぶつ からだ おお ぶんるい はか かた
 海岸動物の体の大きさは、なかま（分類）によって測り方がちがいます。
 この図鑑に出てくる動物の、体の測り方を紹介します。

イソギンチャクのなかま (しほうどうぶつ) (刺胞動物)

ヒドロ虫類、サンゴ類



イソギンチャク類

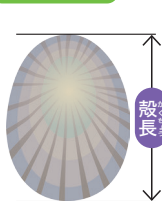


かい 貝のなかま (なんたいどうぶつ) (軟体動物)

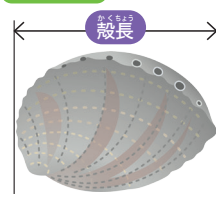
ヒザラガイ類



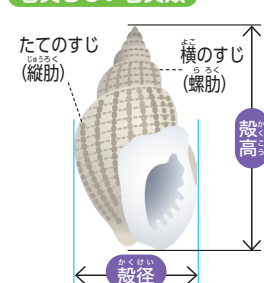
カサガイ類



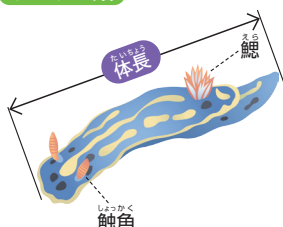
アワビ類



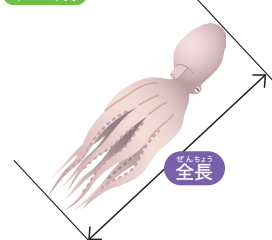
まきがかい まきがいのい 巻貝らしい巻貝類



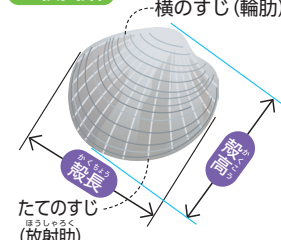
ウミウシ類



タコ類

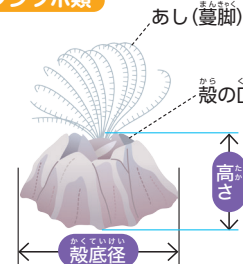


にまきがいのい 二枚貝類



エビ・カニのなかま (せつそくどうぶつ) (節足動物)

フジツボ類



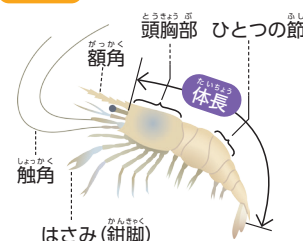
ヨコエビ類



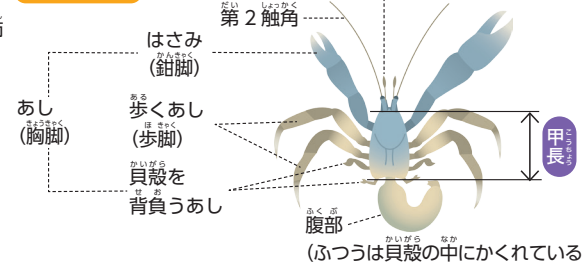
フナムシ類



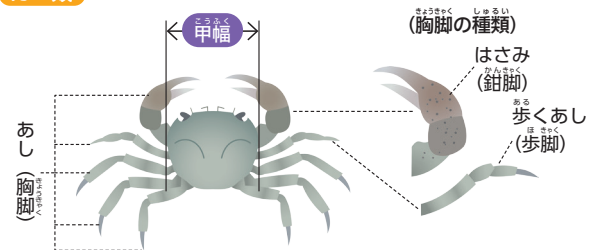
エビ類



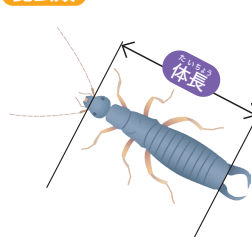
ヤドカリ類



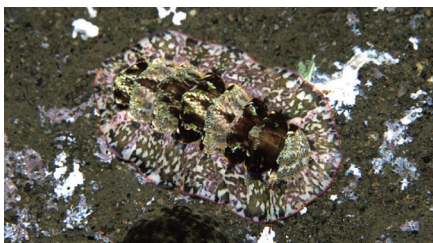
カニ類



こんちゅうい 昆虫類



やわらかい^{からだ}と殻^{から}をもつな^{なんたいどうぶつ}かまを「軟体動物」といいます。ヒザラガイのな^{からだ}かまの体は楕円形^{だえんけい}で平^{ひら}たく、背^せ中^{なか}には殻^{かく}板^{ばん}とよばれる殻^{から}が8枚^{まい}並^{なら}びます。



〈クサズリガイ科^か〉

おお たいちよう かんきよう みなみ いわ うえ した
大きさ 体長 5cm **環境** 南／(中)(下)ア／岩の上や下

☆☆

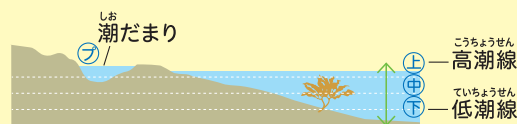
ヒザラガイに比べて表面はなめらかで、さまざまな模様があり、きれいです。



〈ウスヒザラガイ^か科〉

おお たいちょう かんきょう ひがし みなみ いし した
大きさ 体長 3cm **環境** 東・南／**中****下****ブ**／石の下

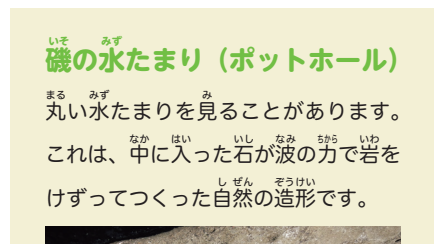
かくばん こま
殻板に細かいたてすじやつぶがあり、さわる
とやすりのようにざらざらとしています。



〈ケハダヒザラガイ^か科〉

おお たいちよう かんきよう ひがし みなみ いわ
大きさ 体長 4cm **環境** 東・南／上中下ア／岩

からだ　ま　なか　はし　かくばん　ちい　りょうがわ　け
体の真ん中を走る殻板は小さく、両側に毛の
よ　う　な　ト　ゲ　の　束　が　あ　り　ま　す。
た　ば



けずってつくった自然の造形です。

おお たいちょう かんきょう みなみ いし した
大きさ 体長 7cm **環境** 南／／石の下 ☆

かくばん ちい まわ にくたい
殻板がとても小さく、周りの肉帯がほとんど
し ほそなが けむし
を占めます。細長く、毛虫のようです。

カサガイのなかま①

なん たい どう ぶつ
軟体動物

カサガイは巻貝のなかまです。殻の形が頭にかぶるかさ（笠）に似ています。
潮間帯の岩場などにすんでいます。



ヨメガカサ

〈ヨメガカサ科〉

大きさ 殻長 4cm 環境 東・南／／岩の上 ☆☆☆
殻は平たく楕円形です。さまざまな黒褐色の斑もようがあります。



ベッコウガサ

〈ヨメガカサ科〉

大きさ 殻長 4cm 環境 西・東・南／／岩の上 ☆☆☆
殻は高さがあります。江の島には殻の表面がざらざらしているタイプが多いです。



マツバガイ

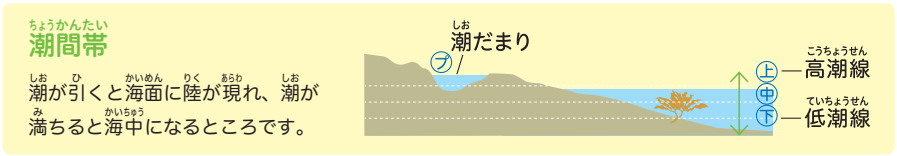
〈ヨメガカサ科〉

大きさ 殻長 7cm 環境 西・東・南／／岩の上 ☆☆☆
大型のカサガイのなかまです。青みのある褐色の地に赤っぽい放射状の線があります。

や こう せい かい
夜行性の貝

ひる ま いわ は
昼間は岩に張りついてじっとしている

マツバガイですが、夜になるとしろ くら
み せて 動き回ります。



カモガイ

〈コガモガイ科〉

大きさ 殻長 3cm 環境 南／／岩の上 ☆☆☆
殻の頂点から外に向かってつづ状の太いすじが入ります。潮間帯の上のほうにいます。



コガモガイ

〈コガモガイ科〉

大きさ 殻長 1cm 環境 西・東・南／／岩の上 ☆☆☆
白と暗褐色の斑もようです。潮間帯の上のほうでよく見られます。



コモレビコガモガイ

〈コガモガイ科〉

大きさ 殻長 1cm 環境 東・南／／岩の上 ☆☆☆
黒地に太くて白いようが入ります。潮間帯の下のほうでよく見られます。



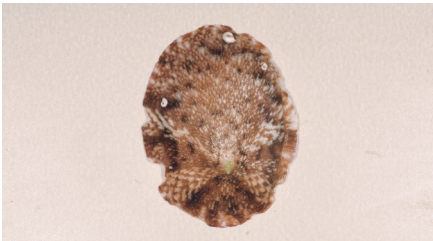
アオガイ

〈コガモガイ科〉

大きさ 殻長 2cm 環境 南／／石の下 ☆☆☆
殻の高さは低く、表面はざらざらしています。褐色の地色にかすれた白い斑があります。

カサガイのなかま②

なん たい どう ぶつ
軟体動物



サクラアオガイ

〈コガモガイ科〉
おお かくちよう かんきよう かんきよう かんきよう
大きさ 殻長 1.5cm 環境 南/⑤/石の下 ★

アオガイよりも殻の高さが低いです。潮間帯の下のほうにいます。



コウダカアオガイ

〈コガモガイ科〉
おお かくちよう かんきよう かんきよう かんきよう
大きさ 殻長 2cm 環境 南/④⑤/岩のすき間や石の下 ☆☆

アオガイの中では殻が高く厚みがあります。暗緑色ですじがあり、ざらざらしています。



クサイロアオガイ

〈コガモガイ科〉
おお かくちよう かんきよう かんきよう かんきよう
大きさ 殻長 1.2cm 環境 東・南/④⑤/石の下

☆☆
殻の高さは低く、白と褐色の細かいもようがあります。殻の内側は青緑色です。



ウノアシ

〈コガモガイ科〉
おお かくちよう かんきよう かんきよう かんきよう
大きさ 殻長 3cm 環境 西・東・南/④⑤⑥⑦

鳥の「ウ」の足のような形で、殻の周囲がとがり、星形のようにも見えます。



ヒメコザラ

〈コガモガイ科〉
おお かくちよう かんきよう かんきよう かんきよう
大きさ 殻長 1cm 環境 西/⑤/岩のすき間や石の下 ☆☆

細かい網目もようと太い放射状のもようがあります。細かいすじが入ります。



キクコザラ

〈コガモガイ科〉
おお かくちよう かんきよう かんきよう かんきよう
大きさ 殻長 0.8cm 環境 南/④/岩のすき間

☆☆
殻の中心から放射状に強いすじが入ります。写真の貝ではピンクの石灰藻がついています。

まきがい 巻貝らしい巻貝のなかま①

なん たい どう ぶつ
軟体動物

ここでは、らせん状に巻いた、巻貝らしい形の殻をもつなかまを紹介します。分類上ではカサガイ類からカラマツガイ類までが同じグループです。



ウズイチモンジ

〈ニシキウズ科〉
おお かくちよう かんきよう かんきよう かんきよう
大きさ 殻高 3cm 環境 南/⑤/岩や石の下 ☆

殻は円すい形で、底部の周りに突起が並びます。白地に赤茶色のもようが入ります。



イシダタミ

〈ニシキウズ科〉
おお かくちよう かんきよう かんきよう かんきよう
大きさ 殻高 2cm 環境 西・東・南/④⑤/岩のすき間や石の下 ☆☆☆

表面が石畳のように細かく区切られています。濃い緑色に薄い色が入る個体もいます。

まきがい まきがい
巻貝らしい巻貝のなかま②

なんたい どうぶつ
軟体動物



クビレクロツケ
〈ニシキウズ科〉
おお 殻高 2cm かんきょう 南/㊤/岩の下や上 ☆
殻はかたくて丸みがあります。黒地に白の細いジグザグの線が入ります。



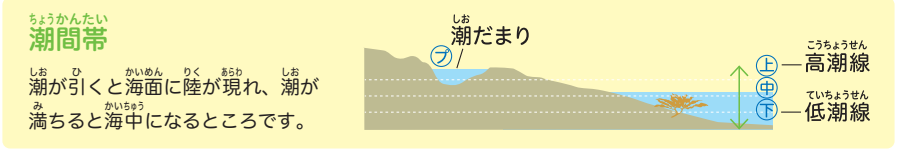
チグサガイ
〈ニシキウズ科〉
おお 殻高 1.5cm かんきょう 南/㊤/海藻の上 ☆
やや細長い円すい形です。赤地に白や褐色の点線もようが入ります。



エビスガイ
〈エビスガイ科〉
おお 殻高 2.5cm かんきょう 南/㊤㊦㊧/岩場 ☆
上部はきれいな円すい形で下側は丸みがあります。茶色やオレンジ色をしています。



サザエ
〈サザエ科〉
おお 殻高 10cm かんきょう 東・南/㊤㊦㊧/岩場 ☆☆
殻の表面にトゲがある個体と、ない個体があります。かたくて厚いふたをもちます。



スガイ
〈サザエ科〉
おお 殻高 3cm かんきょう 西・東・南/㊤㊦㊧ ☆
／岩のすき間 ☆☆☆
殻の高さは低く、緑の海藻がついていることが多いです。分厚いふたがあります。



ウラウズガイ
〈サザエ科〉
おお 殻高 2cm かんきょう 東・南/㊤㊦㊧/岩のすき間や石の下 ☆☆
白っぽくて比較的きれいな円すい形です。裏のうずの中心やふたが紫色をしています。



クボガイ
〈クボガイ科〉
おお 殻高 3cm かんきょう 東・南/㊤㊦/岩のすき間や石の下 ★
殻は丸みのある円すい形で、ざらざらしたなめのすじがあります。上は乾いた標本です。



ヘソアキクボガイ
〈クボガイ科〉
おお 殻高 4cm かんきょう 南/㊤/岩のすき間や石の下 ☆
クボガイに比べて、殻はやや低く横に広い形です。裏側にへそのような穴があります。

まきがい まきがい
巻貝らしい巻貝のなかま③

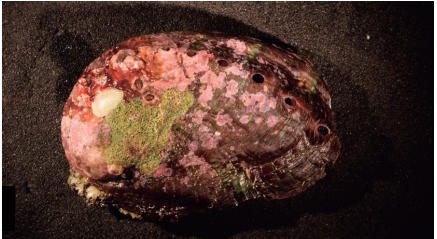
なんたい どうぶつ
軟体動物



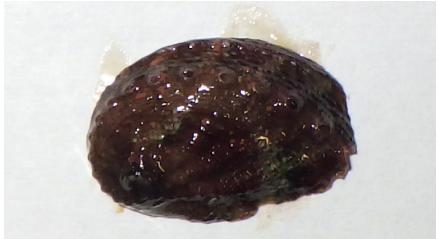
コシダカガンガラ
〈クボガイ科〉
大きさ 殻高 3cm 環境 東・南／④⑤／岩のすき間や石の下 ☆
クボガイよりも白みを帯びていて、ごつごつしています。裏側の中央に穴があります。



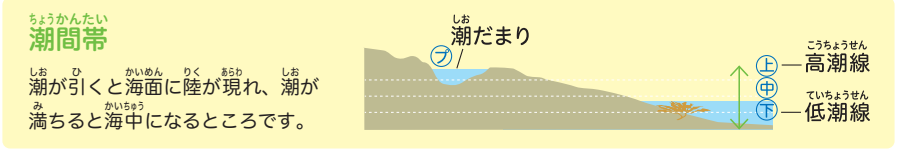
バテイラ
〈クボガイ科〉
大きさ 殻高 4cm 環境 南／⑦⑧／岩のすき間や海藻の上 ☆☆
きれいな円すい形で、横から見ると三角形です。黒っぽくて表面はなめらかです。



トコブシ
〈ミミガイ科〉
大きさ 殻長 7cm 環境 南／⑦／岩のすき間や石の下 ☆
アワビ類よりも小型で細長い楕円形です。7～8個の穴があります。



クロアワビ
〈ミミガイ科〉
大きさ 殻長 20cm 環境 南／⑦／岩のすき間や石の下 ☆☆
穴は4～6個で穴の周りが盛り上がっています。磯ではまだ小さな個体が見られます。



オトメガサ
〈スカシガイ科〉
大きさ 殻長 4cm 環境 南／⑦／岩のすき間や石の下 ☆
黒から灰色の体が殻をかくすようにおっています。白い小さな殻をもちます。



アマオブネ
〈アマオブネ科〉
大きさ 殻長 2cm 環境 東・南／④⑤⑦⑧／岩や石の下 ☆☆☆
丸みのある形をしています。殻は黒地に白い斑で、下側は白くて平らになっています。



アマガイ
〈アマオブネ科〉
大きさ 殻長 1cm 環境 南／④／岩や石の下 ☆
表面はなめらかです。アマオブネよりも巻きの頂点が目立ちます。



コベルトカニモリ
〈オニノツノガイ科〉
大きさ 殻高 3cm 環境 東／④⑤／岩のすき間 ☆
細長い円すい形の殻の表面にはつぶ状のすじがあります。口の内側に白黒の線が見えます。

まきがい まきがい
巻貝らしい巻貝のなかま④

なんたい どうぶつ
軟体動物



アラレタマキビ
〈タマキビ科〉
おお 大き さ 殻高 0.8cm 環境 西・東・南/④/岩の上 ☆☆☆
タマキビよりもややたて長で小さいです。巻きに沿ってつぶ状のすじがあります。



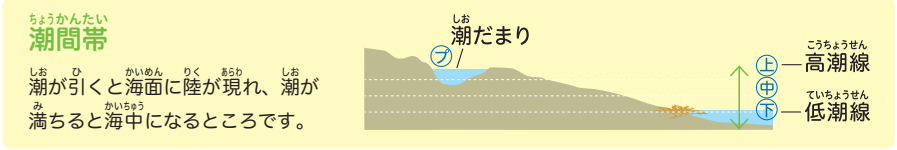
イボタマキビ
〈タマキビ科〉
おお 大き さ 殻高 1cm 環境 南/④/岩の上 ☆
殻は高く先がとがっています。巻きに沿って大きめのいぼがあります。



タマキビ
〈タマキビ科〉
おお 大き さ 殻高 1cm 環境 西・東・南/④/岩の上 ☆☆☆
そろばんの玉のような形で、巻きに沿って強いすじが入ります。



シマメノウフネガイ
〈カリバガサ科〉
おお 大き さ 殻高 3cm 環境 西・東・南/④⑤⑥/貝殻の上 ☆☆ 外来種
アワビなどの貝の上に張りついています。表面はなめらかです。



オオヘビガイ
〈ムカデガイ科〉
おお 大き さ 殻径 6cm 環境 南/④⑤⑥/岩の上 ☆☆☆
巻貝ですが、ヘビがとぐろを巻くような形で岩の上にくっついてます。



メダカラガイ
〈タカラガイ科〉
おお 大き さ 殻高 2cm 環境 東・南/④⑤/砂れきの上 ☆
かたくてなめらかな殻の背中側の中央に、まるで目のような大きな褐色の斑があります。



チャイロキヌタ
〈タカラガイ科〉
おお 大き さ 殻高 1.5cm 環境 南/④/砂れきの上 ☆
茶色地に薄い横線が2本うっすらと入ります。活動するときは黒い体が見えます。



ツメタガイ
〈タマガイ科〉
おお 大き さ 殻高 7cm 環境 西/④/砂の中 ☆
殻に高さはなく、横に丸くふくれます。二枚貝に穴を開けて中身を食べます。

まきがい まきがい
巻貝らしい巻貝のなかま⑤

なんたい どうぶつ
軟体動物



カコボラ
〈フジツガイ科〉
おお かくこう 殻高 10cm かんきょう 環境 東・㊦／岩のすき間
☆
殻の表面は毛のような突起に見える殻皮でおわれています。



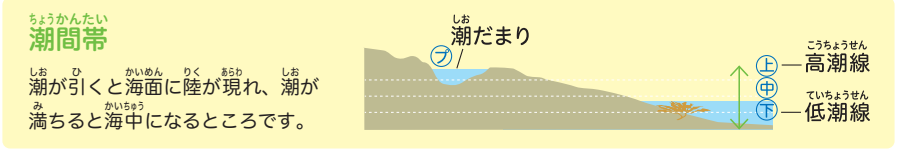
フトコロガイ
〈フトコロガイ科〉
おお かくこう 殻高 1.2cm かんきょう 環境 南・㊦／岩のすき間
や石の下 ☆☆
上部はきれいな円すい形で、細長い殻の口の上が出っぺっています。



ボサツガイ
〈フトコロガイ科〉
おお かくこう 殻高 1.5cm かんきょう 環境 西・東・南・㊦／岩のすき間や石の下 ☆
白地に茶色の不規則な模様が入ります。殻の上にたてすじがあります。



コウダカマツムシ
〈フトコロガイ科〉
おお かくこう 殻高 1.5cm かんきょう 環境 東・南・㊦／岩場
☆
殻は細長く、口はたて長に開きます。表面はなめらかで、模様はさまざまです。



アラムシロ
〈ムシロガイ科〉
おお かくこう 殻高 1.5cm かんきょう 環境 西・東・㊦／砂泥の上 ☆
殻は細長く、表面はつづが並びます。口の周りには厚くなっています。



クロスジムシロ
〈ムシロガイ科〉
おお かくこう 殻高 1cm かんきょう 環境 西・南・㊦／砂泥の上 ☆
殻は細長いですがふくらみがあり、たてにすじが入ります。



キヌボラ
〈ムシロガイ科〉
おお かくこう 殻高 1cm かんきょう 環境 東・㊦／砂泥の上 ☆
殻は細長く、細かいたてすじが入り、ヒドロ虫でおおわれていることがあります(矢印)。



イソニナ
〈エゾバイ科〉
おお かくこう 殻高 4cm かんきょう 環境 南・㊦／岩のすき間 ☆☆
殻は細長い形で緑っぽく、表面はなめらかです。口の内部が黒っぽいです。

まきがい まきがい
巻貝らしい巻貝のなかま⑥

なんたい どうぶつ
軟体動物



ヒメヨウラク
〈アッキガイ科〉
おお かくこう かんきょう におお かくこう かんきょう におお かくこう かんきょう
大きさ 殻高 2.5cm 環境 東・南／㊦㊧㊨／岩場
☆☆
殻のたてのすじは太く、横には細いすじがあります。白地に茶色のもようが入ります。



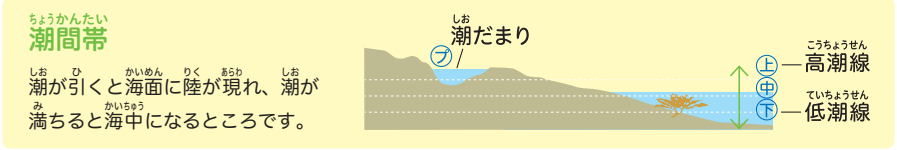
イトマキレイシダマシ
〈アッキガイ科〉
おお かくこう かんきょう におお かくこう かんきょう におお かくこう かんきょう
大きさ 殻高 1cm 環境 東／㊦／岩場 ☆
白黒のしまに見える横すじがあります。殻の口に歯（小さなコブ）があります。



レイシガイ
〈アッキガイ科〉
おお かくこう かんきょう におお かくこう かんきょう におお かくこう かんきょう
大きさ 殻高 5cm 環境 西・東・南／㊦㊧㊨／岩場 ☆☆☆
殻はぼうずい形でいぼ状の出っぺりがあります。殻の口は黄褐色です。



イボニシ
〈アッキガイ科〉
おお かくこう かんきょう におお かくこう かんきょう におお かくこう かんきょう
大きさ 殻高 3cm 環境 西・東・南／㊦㊧㊨／岩場 ☆☆☆
レイシガイと似た形ですが、殻の口は黒色が混ざります。江の島ではたくさん見られます。



アカニシ
〈アッキガイ科〉
おお かくこう かんきょう におお かくこう かんきょう におお かくこう かんきょう
大きさ 殻高 10cm 環境 西・東／㊦㊧㊨／砂地
や岩場 ☆
殻の口がとても大きく、入り口はオレンジ色です。潮間帯では大型の貝です。



オハグロシャジク
〈クダマキガイ科〉
おお かくこう かんきょう におお かくこう かんきょう におお かくこう かんきょう
大きさ 殻高 2cm 環境 東／㊦㊧㊨／海藻の上 ☆
殻は細長く、ななめのすじが入ります。黒褐色と白のしまもようです。



ミスガイ
〈ミスガイ科〉
おお かくこう かんきょう におお かくこう かんきょう におお かくこう かんきょう
大きさ 殻高 4cm 環境 南／㊦／砂の中 ☆
細い線がたくさん入った殻をもちます。肉は薄い紫色で、ふちは白く、うねります。

貝のおなか側

ヒザラガイ、マツバガイ、イボニシのおなか側の体です。かべにすき間なく張りつくことができます。

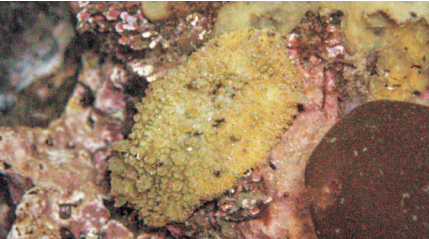
マツバガイ

ヒザラガイ

ウミウシのなかま①

なん たい どう ぶつ
軟体動物

とう ぶ ほん しゅうかく うし つの み うみうし な ゆらい
頭部にある2本の触角が牛の角のように見ることが「海牛」の名の由来
です。ウミウシも巻貝のなかまですが、殻は退化しています。



ヤマトウミウシ

〈ドーリス科〉

おお たいちよう かんきよう ひがし いわ ば
大きさ 体長 10cm 環境 東/㊟/岩場 ☆
き いろ せ なか さき くる だいしやう
黄色い背中に、先が黒っぽい大小のいぼがた
くさんあります。腹側はオレンジ色です。



シロウミウシ

〈イロウミウシ科〉

おお たいちよう かんきよう かんきよう かんきよう
大きさ 体長 4cm 環境 南/㊟/岩場 ☆
からだ しろ じ くる てん からだ しよつ
体は白地で黒い点があります。体のふち、触
角、鰓の先は黄色です。



サラサウミウシ

〈イロウミウシ科〉

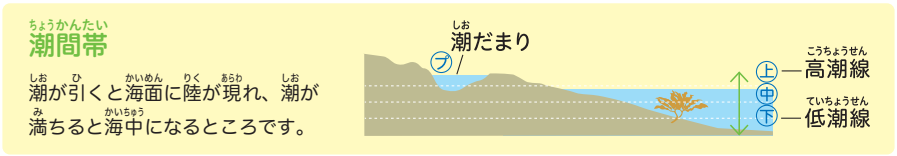
おお たいちよう かんきよう かんきよう かんきよう
大きさ 体長 6cm 環境 南/㊟/岩場 ☆
しろ じ あか あみ め きら き ぬの おも
白地に赤い網目が更紗という布のもようを思
わせます。体のふちは黄色です。



アオウミウシ

〈イロウミウシ科〉

おお たいちよう かんきよう かんきよう かんきよう
大きさ 体長 3cm 環境 南/㊟/岩場 ☆
あお からだ き いろ けそなが せん てん
青い体に、黄色のふちどりと細長い線と点の
もようがあります。触角と鰓は赤色です。



クロシタナシウミウシ

〈クロシタナシウミウシ科〉

おお たいちよう かんきよう ひがし あみ いわ ば
大きさ 体長 5cm 環境 東・南/㊟/岩場 ☆
ぜんしん くる からだ しゅうかく さき えら さき
全身は黒く、体のふちと触角の先、鰓の先が
おうかつしよく
黄褐色です。



ダイダイウミウシ

〈クロシタナシウミウシ科〉

おお たいちよう かんきよう かんきよう かんきよう
大きさ 体長 3cm 環境 南/㊟/石の下 ☆
ぜんしん が オレンジ色で、白くて細い網目もよう
があります。暗いところを好みます。



ムカデミノウミウシ

〈ヨツスジミノウミウシ科〉

おお たいちよう かんきよう かんきよう かんきよう
大きさ 体長 7cm 環境 南/㊟/岩場 ☆
あおい ろ かつしよく けそなが からだ すうほん
青色や褐色の細長い体に、数本ずつまとまっ
た突起 (みの) が2列あります。



アカエラミノウミウシ

〈ヨツスジミノウミウシ科〉

おお たいちよう かんきよう かんきよう かんきよう
大きさ 体長 4cm 環境 南/㊟/岩場 ☆
とつ き しろ さき しろ
突起 (みの) はオレンジ色で、先が白いです。
触角と尾の部分に白い線があります。

ウミウシのなかま②

なんたい どうぶつ
軟体動物



ブドウガイ

〈ブドウガイ科^か〉

お だきさ たいしやう かんきやう せうめい いわい ば
 大さき 体長 2.5cm 環境 南 / 岩場 ☆

とうめい うす から せうりやう かつしよく
 透明な 薄い殻をもっています。 緑色や褐色の

からだ いろ はくしよく てん
 体には、オレンジ色や白色の点があります。



アメフラシ

〈アメフラシ^か科〉

おきさ おきさ たいしやう たいしやう かんえんやう かんえんやう じやう じやう あん あん いわ いわ ば
大き 体長 30cm **環境** 東・南／**中****大****7**／岩場
 や海藻の中 ☆☆☆
 くら くら はく はく いめん いめん ぱく ぱく しやく しやく まだら まだら
 体は黒っぽく、背面に白色の斑もようがあり
 ます。 せなか 背中の さゆう ひだが わ 左右でわかれてます。



アマクサアメフラシ

〈アメフラシ^か科〉

おお たいちゆう かんちゅう むらさ いわば かいそう
大きさ 体長 12cm **環境** 南／⑤／岩場や海藻の
 なか
 中 ☆
 からだ いろ こたい せ なか
 体の色は個体によりさまざまです。背中の中
 だが後部でつながっています。



クロヘリアメフラシ

〈アメフラシ^か科〉

おお たいしやう かんよう せうばい いわ ばい かいそう
大きさ 体長 3.5cm **環境** 南 / ㊦㊧ / 岩場や海藻
 の中 ☆
 からだ せきかつしよく あんかつしよく せ なか あかい
 体は赤褐色から暗褐色で、背中ののひだに赤色
 または黒色ののふちどりがああります。

Column

い も の う み
生き物からわかる海のようす

にしかわ ゆう ま しん え しますいぞくかん
西川 湧馬 (新江ノ島水族館)

せいぶつちょうさ 生物調査から見てきたこと

2022 年に江の島の潮間帯動物の生息
についてまとめたものが、私の江の島に
おける論文第一号でした。そこで調査し
た種は全部で 229 種、短期間でたくさ
んの生物にふれたことで得られる情報は
とても多かったです。その中でもとくに
興味をもったのがフジツボと貝類で、そ
れらの同定（種を見きわめる）作業はと
ても細かい部分を確認する必要があります
ですが、見れば見るほど生物の多様性や進
化について学ぶことができました。

江の島は地形や水質が変化に富んでいるため多種多様な生物が生息し、それぞれが好みの場所で暮らしています。私たち人間はきれいで透き通っている海を好みますが、種によってはそうでもないようです。

例えば、マガキは内湾にいるプランクトンを好んで、にこった海に生息しています。ここがマガキにとってはすみやすい場所といえます。さらに、シロスジフジツボ、ドロフジツボ、アメリカフジツボ、ヨーロッパフジツボといった種は塩分の低い海岸にすむことができ、2022年の調査でも、境川の影響で低塩分になっている島の北側（塩分が通常の海水

の30～60%^{のうど}くらいの^{かくにん}濃度)だけで確認
されました。反対に、カイメン^{はんたい}類の中に^{なかな}
すむケハダカイメン^{ていえんぶん}フジツボは低塩分^{かいがん}の^{せいき}
海岸^{かいがん}には生息^{せいそく}していません。

このように生物のことを調べるとその
 種^{しゅ}の好^{この}む環^{かん}境^{きやう}を知^しることができま
 す。そうすると、好^{この}む環^{かん}境^{きやう}がわかつた生物^{せいぶつ}を見^み
 つけた場所^{ばしよ}の潮流^{そうりゅう}の強^{つよ}さや塩^{えん}分^{ぶん}をある程^{てい}
 度^ど予^よ想^{そう}することもできま
 す。生物^{せいぶつ}を調査^{ていさ}
 する中で、フジツボや貝類^{かいりゆう}が海岸^{かいがん}の
 地形^{ちけい}・水質^{すいしつ}・海流^{かいりゅう}などの情報^{じふろう}をこれほど
 多く^{おほく}教^{おし}えてくれることにはおどろきまし
 た。

生物がその海岸に生息しているのには何か意味があるのだという視点で観察すると、新しい発見があるかもしれません。



え しま ちょうかんたいどうぶつそう ちょう さ
江の島における潮間帯動物相の調査

カラマツガイのなかま

なん たい どう ぶつ
軟体動物

見た目はカサガイに似ていて、同じような環境で暮らしています。けれども、実はカタツムリに近いなかまで、肺で呼吸をする有肺類です。



キクノハナガイ

〈カラマツガイ科〉

おお かくちょう かんきょう
大きさ 殻長 2cm 環境 西・東・南/上中下
/岩場 ☆☆☆
黒くて平らな形をしています。6、7本の白くて太い線があります。



カラマツガイ

〈カラマツガイ科〉

おお かくちょう かんきょう
大きさ 殻長 2cm 環境 西・東・南/上中下
/岩場 ☆☆☆
殻は黄褐色で、細い線が中心から外側にいくつものびています。殻の内側は真っ黒です。



シロカラマツガイ

〈カラマツガイ科〉

おお かくちょう かんきょう
大きさ 殻長 2cm 環境 西/上中/岩場 ☆
白くて細いすじがいくつもあり、すじの間は黒いです。

岩の上のドーナツの正体

春から夏にかけて、岩の上に黄色いドーナツ形のものがよく見られます。これはカラマツガイの卵です。



タコのなかま

なん たい どう ぶつ
軟体動物

タコも貝と同じ軟体動物です。体を包むかたい殻はありません。タコの体はとてもやわらかく、岩のすき間にもぐりこむことで身を守ります。



マダコ

〈マダコ科〉

おお ぜんちよう かんきょう
大きさ 全長 50cm 環境 南/上/岩場 ☆
体はのび縮みができてやわらかいです。色は周りにあわせて変えることができます。

岩のすき間でかくれんぼ

カエルウオはタイドプールでよく見られる細長い魚です。近づくとき岩のすき間にかくれます。



潮間帯で見られる魚たち

潮間帯では、アゴハゼやドロメ、ボラの稚魚などの小魚が泳ぐ姿を観察することができます。暖かい時期には、黄色いチョウチョウウオや青いソラスズメダイなど、カラフルな稚魚の姿も見られます。



に ま い が い
二枚貝のなかま①

なん たい どう ぶ つ
軟体動物

まい から さ ゆう からだ つつ すな
2枚の殻で左右から体を包んでいます。あしで砂をほってもぐっているものや、足糸という糸を出して岩などにくっつくものもあります。



エガイ

〈フネガイ科〉

おお かくちよう かんきよう ひがし にし いわ ま
大きさ 殻長 5cm 環境 東／㊤㊤／岩のすき間

☆
殻は楕円形をしています。細かいすじがあり、その上はつづ状になっています。



カリガネエガイ

〈フネガイ科〉

おお かくちよう かんきよう にし ひがし みなみ
大きさ 殻長 4cm 環境 西・東・南／㊤㊤㊤

／岩のすき間 ☆☆
片方がふくらんだような楕円形をしています。黒い毛が生えています。

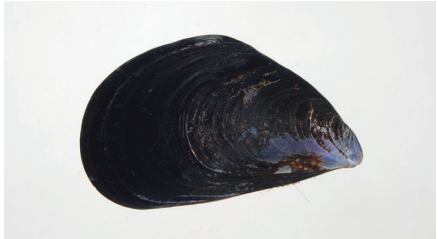


アオカリガネエガイ

〈フネガイ科〉

おお かくちよう かんきよう ひがし みなみ いわ
大きさ 殻長 4cm 環境 東・南／㊤㊤㊤／岩のすき間 ☆

殻はカリガネエガイによく似ていますが、細くてごつごつとしています。

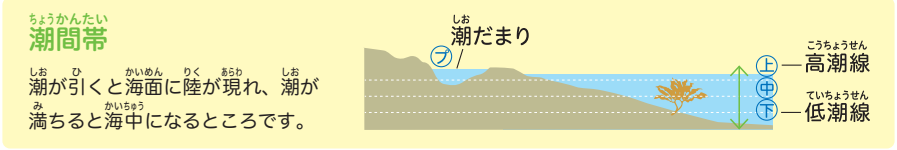


ムラサキエガイ

〈イガイ科〉

おお かくちよう かんきよう にし ひがし いわ
大きさ 殻長 5cm 環境 西／㊤㊤㊤／岩のすき間

やロープなど人工物の上 ☆☆☆ 外来種
殻全体が黒紫です。殻のてっぺんはとがっています。ムールガイともよばれます。



クログチ

〈イガイ科〉

おお かくちよう かんきよう にし ひがし いわ
大きさ 殻長 1cm 環境 西・東／㊤㊤／岩のすき間 ☆☆

殻は小さく楕円形で、全体が黒紫です。岩のくぼみに集まっています。



ミドリイガイ

〈イガイ科〉

おお かくちよう かんきよう にし ひがし みなみ いわ
大きさ 殻長 8cm 環境 西・東・南／㊤㊤㊤／岩のすき間 ☆☆☆ 外来種

ムラサキエガイと似た形であざやかな緑色です。よく一か所に集まっています。

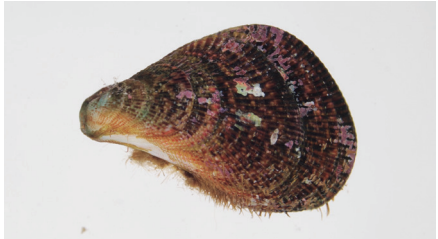


コウロエンカワヒバリガイ

〈イガイ科〉

おお かくちよう かんきよう にし ひがし いわ
大きさ 殻長 3cm 環境 西／㊤㊤㊤／岩のすき間 ☆ 外来種

つやのある黒色です。少し折れ曲がった楕円形で、ブーメランのような形をしています。



クジャクガイ

〈イガイ科〉

おお かくちよう かんきよう にし ひがし みなみ いわ
大きさ 殻長 2.5cm 環境 西・東・南／㊤㊤㊤／岩のすき間 ☆☆

外側には細かい毛とはっきりとしたすじがあります。殻の内側は青白いです。

に ま い が い
二枚貝のなかま②

なん たい どう ぶつ
軟体動物



ムラサキインコ

〈イガイ科〉

おお かくちょう かんきょう にし いわ ま
大きさ 殻長 3cm 環境 西/⑤⑥⑦/岩のすき間

☆
殻は外側も内側も黒紫です。色と形は曲がったナスのようです。



ヒバリガイモドキ

〈イガイ科〉

おお かくちょう かんきょう にし あり いわ
大きさ 殻長 2.5cm 環境 西・南/⑥⑦⑧/岩の

すき間 ☆
殻の全面に細いすじがあります。外側は茶色で内側は真珠色です。



ヒバリガイ

〈イガイ科〉

おお かくちょう かんきょう へし あり いわ ま
大きさ 殻長 4cm 環境 東・南/⑥⑦/岩のすき間

☆
殻の表面にすじはなく、毛が生えています。外側は赤と茶色で、内側は真珠色です。

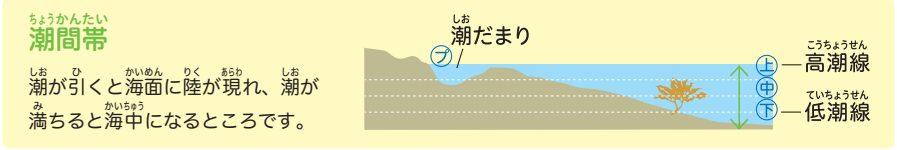


ホトトギスガイ

〈イガイ科〉

おお かくちょう かんきょう へし あり いわ ま
大きさ 殻長 2cm 環境 南/⑥⑦/岩のすき間や下

☆
緑褐色の殻の表面はなめらかで、優しい光沢があります。泥の上でよく見られます。



イシマテ

〈イガイ科〉

おお かくちょう かんきょう へし あり いわ あ
大きさ 殻長 5cm 環境 東・南/⑥⑦⑧/岩に開け

た穴の中 ☆☆
殻は細長く茶色で、白い石灰質がついています。



アコヤガイ

〈ウグイスガイ科〉

おお かくちょう かんきょう へし あり いわ ま
大きさ 殻長 7cm 環境 南/⑥⑦/岩のすき間

☆
殻のふちはぎざぎざしています。真珠貝として有名で、内側は真珠色をしています。



マガキ

〈イタボガキ科〉

おお かくちょう かんきょう にし へし いわ
大きさ 殻長 15cm 環境 西・東/⑥⑦⑧/岩

の上 ☆☆☆
茶色からクリーム色です。薄い殻をいくつも重ねたような貝殻をもっています。



イワガキ

〈イタボガキ科〉

おお かくちょう かんきょう にし へし いわ
大きさ 殻長 20cm 環境 西・東/⑥⑦⑧/岩の

上 ☆☆☆
分厚い殻をもっていて、まるで岩のようです。紫褐色をしています。

に ま い が い
二枚貝のなかま③

なん たい どう ぶつ
軟体動物



ケガキ
〈イタボガキ科〉
おお かくちよう かんきよう びし みる いわ うえ
大きさ 殻長 8cm 環境 東・南/㊥㊦/岩の上
☆☆☆
殻から細くて長いトゲ状の突起が、毛のよう
にいくつも出ています。



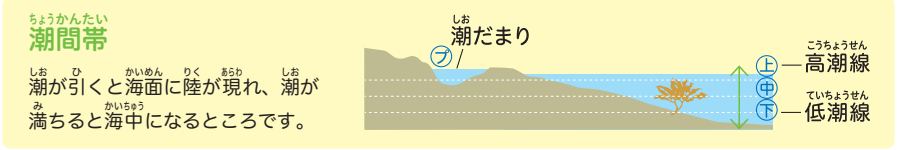
アズマニシキ
〈イタヤガイ科〉
おお かくちよう かんきよう びし いわ ば ☆
大きさ 殻長 7cm 環境 東/㊥/岩場 ☆
殻の色は茶や赤、オレンジ色など。すじがい
くつもあり、太いすじの上に突起があります。



ナミガシワガイ
〈ナミガシワ科〉
おお かくちよう かんきよう びし みる いわ かいがら
大きさ 殻長 4cm 環境 東・南/㊥㊦/岩や貝殻
の上 ☆
殻は円形でとても薄く、薄桃色や黄色、白色
をしています。



トマガイ
〈トマガイ科〉
おお かくちよう かんきよう びし みる いわ ば ☆
大きさ 殻長 3cm 環境 東・南/㊥㊦/岩のす
き間や石の下 ☆
殻は分厚く、とても太いすじがあります。



ウネナシトマヤガイ
〈フナガタガイ科〉
おお かくちよう かんきよう にし がら
大きさ 殻長 4cm 環境 西/㊦/カキ殻やれきに
付着 ★
殻はすじのない楕円形です。内側には 紫色の
太い線状のもようがあります。



オニアサリ
〈マルスダレガイ科〉
おお かくちよう かんきよう みる すな ち ☆
大きさ 殻長 4cm 環境 南/㊥/砂地 ☆
丸みを帯びた形をしていてアサリに似ていま
すが、殻はかたくて全体的にすじがあります。

あな あ かい がら
穴の開いた貝殻のなぞ

すなはま ちい あな あ
砂浜に小さな穴が開いたアサリやサクラ
ガイの貝殻が落ちていることがあります。
この穴はツメタガイが二枚貝を食べるた
めに開けた穴で、ここから中身を溶かし
て食べます。

に ま い が い
二枚貝のなかま④

なん たい どう ぶ つ
軟体動物



アサリ
〈マルスダレガイ科〉
おお かくちよう かんきよう にし びがし すな ち ☆
大きさ 殻長 4cm 環境 西・東/㊦㊧/砂地 ☆
から そとがわ ちい
殻の外側には、小さなつぶがたくさんあります。もようはさまざまです。



セミアサリ
〈イワホリガイ科〉
おお かくちよう かんきよう にし びがし あな いわ ☆
大きさ 殻長 2cm 環境 西・東・南/㊨㊩/岩の
すき間 ☆☆
ぜんたい しろ かたがわ から おお かた
全体が白いです。片側の殻が大きくてもう片
ほう つつ せいちよう
方を包みこむように成長していきます。



ウチムラサキ
〈マルスダレガイ科〉
おお かくちよう かんきよう かん びがし いし した すな ち ☆
大きさ 殻長 8cm 環境 南/㊪/石の下や砂地 ☆
★
から そとがわ うす かつしよく ほそ
殻の外側は薄い褐色で、細いすじがたくさん
うちがわ いろさきいろ
あります。内側は紫色です。



ウスカラシオツガイ
〈イワホリガイ科〉
おお かくちよう かんきよう にし びがし あな いわ ☆
大きさ 殻長 2cm 環境 西・東・南/㊫㊬/二
まいがい む なか がいらいしめ
枚貝の群れの中 ☆ 外来種
うす かつしよく ほし せいちよう から ふ き そく
薄い褐色をしています。成長した殻は不規則
おお
にゆがんだ形をしていることが多いです。

Column
さ あみぎょかくぶつちよう さ おも いて
刺し網漁獲物調査の思い出
はまわら きよし こしやすし じんぶんはくぶつぐらん
萩原 清司 (横須賀市自然・人文博物館)

ねんだい え し ま さ あみりよう
1990年代の江の島の刺し網漁

1994 年から 1995 年には江の島の刺し網漁獲物の調査を行いました。刺し網は江の島沖から七里が浜の沖にかけての漁場にしかけられ、季節によってサザエ、イセエビ、シタビラメなどを漁獲していました。江の島漁港の網干し場では早朝に漁師さんが網にかかった獲物を網から外す作業をしている光景が見られ、夏場は午前4時ごろから、冬でも午前6時ごろから行われる作業を、14か月間、週1回ほどの間かくで見学しながら、カニなどの甲殻類を標本としていただきました。

とくになかよくしていただいた巳之助丸さんは、網に深くからまったマンジュウガニ類(オウギガニ科)などは、ふつうはあしを切断して網から外すところを、「そのカニがほしい」と申し出ると、「しかたねえなあ」と言いながらもていねいに無傷で外してくださった思い出があります。こうして収集した貴重な甲殻類標本は、葉山しおさい博物館に寄贈・登録され、調査結果は、1996年の神奈川県立生命の星・地球博物館発行『神奈川県自然誌資料17号』に「江の島の漸深海帯で漁獲された十脚甲殻類」として掲載されました。

さ あみりよう げんじよう
刺し網漁の現状は？

現在、相模湾沿岸では、大型海藻が姿を消してしまう「磯焼け」が問題になっていますが、1994年当時は藻場に暮らすモクズシヨイやワタクズダマシなどのクモガニ科の甲殻類が多く見られ、海藻が豊富であったことが想像できます。また、相模湾ではめずらしいオカモトワタクズダマシやワタリイシガニなども収集できました。

最近では網干し場での作業をする漁師さんもいなくなり、刺し網漁獲物について知るすべは減ってしまいましたが、当時との環境の変化を知るために、再び調査を行ってみたいものです。



1995年当時に見られた網干し場で行われる漁獲物の収穫と網のそうじ(巳之助丸さんご夫妻)

参考文献

書籍

『新 写真でわかる磯の生き物図鑑』 今原幸光（編著） 2023 海文堂出版株式会社
『小学館の図鑑 NEO POKET 海辺の生物』 白山義久ほか 2011 株式会社小学館
『日本近海産貝類図鑑』【第二版】 奥谷喬司（編著） 2017 東海大学出版部
『写真でわかる磯の生き物図鑑』 今原幸光（編著） 2013 トンボ出版
『海洋生物ガイドブック』 益田一 1999 東海大学出版
『小学館の図鑑 NEO 新版 水の生物』 白山義久ほか 2019 株式会社小学館
『ナマコガイドブック』 本川 達雄、今岡 亨、楚山いさむ 2003 株式会社阪急コミュニケーションズ
『ヨコエビガイドブック』2 版 有山啓之 2023 海文堂出版株式会社
『環形動物多毛類』 第 2 版 今島実 2004 株式会社生物研究社
『干潟ベントスフィールド図鑑』 鈴木孝男、木村昭一、木村妙子、森敬介、多留聖典 2013 特定非営利活動法人日本国際湿地保全連合

論文

江の島の潮間帯動物相 植田育男・萩原清司 1988 神奈川自然誌資料, (9) : 23-29
江の島の潮間帯動物相 II 萩原清司・植田育男 1993 神奈川自然誌資料, (14) : 53-58
江の島の潮間帯動物相 III 植田育男・萩原清司・崎山直夫 1998 神奈川自然誌資料, (19) : 31-38.
江の島の潮間帯動物相 IV 植田育男・萩原清司・崎山直夫・足立 文 2003 神奈川自然誌資料, (24) : 25-32
江の島の潮間帯動物相 V 植田育男・萩原清司・櫻井 徹 2008 神奈川自然誌資料, (29) : 163-169.
江の島の潮間帯動物相 VI 植田育男・萩原清司・伊藤寿茂・北嶋 円・村石健一 2013 神奈川自然誌資料, (34) : 25-32
江の島の潮間帯動物相VII 伊藤寿茂・植田育男・萩原清司・北嶋 円・岩崎猛朗・村石健一・崎山直夫 2018 神奈川自然誌資料, (39) : 13-21
江の島の潮間帯動物相 VIII 西川湧馬・植田育男・萩原清司・崎山直夫・伊藤寿茂・北嶋 円・加登岡大希・藤田温真 2023 神奈川自然誌資料, (44) : 89-100.
江の島潮間帯のフジツボ相 植田育男・萩原清司 1990 神奈川自然誌資料, (11) : 125-129.

ウェブサイト

BISMaL- ビスマル - 国立研究開発法人海洋研究開発機構
<https://www.godac.jamstec.go.jp/bismal/j/>

謝辞

本書のきっかけである「江の島の潮間帯動物相調査」は 1987 年、当時江の島水族館に勤務していた植田育男氏と萩原清司氏が始めたもので、当館が江の島を継続調査する礎となっております。調査にあたり、江の島片瀬漁業協同組合や湘南海上保安署、江の島ヨットハーバー、島民のみなさまにご協力をいただきました。池田等先生、大谷道夫先生、西栄二郎先生には専門的な目線よりご校閲をいただきました。地形の変化については平塚市博物館の野崎篤氏に助言をいただきました。また、河津結実氏、宮村美帆氏、尾和みゆき氏のお陰で本の形になったと言っても過言ではありません。本書は海の学びミュージアムサポートの助成金を活用し制作いたしました。関わってくださった多くの方々に深く御礼申し上げます。

北嶋 円

執筆協力・制作

校閲

池田 等（相模湾海洋生物研究会）
大谷道夫（大阪市立自然史博物館）
西 栄二郎（横浜国立大学）
なぎさの体験学習館
小学館クリエイティブ

画像協力

池田 等（相模湾海洋生物研究会）
なぎさの体験学習館
藤沢市藤澤浮世絵館

イラスト

倉本ヒデキ（p.10-15、p.112-114、p.117）
新江ノ島水族館 デザインチーム

デザイン

櫻元久幸（新江ノ島水族館）
ニシエ芸株式会社

編集

新江ノ島水族館
尾和みゆき・河津結実（小学館クリエイティブ）
宮村美帆

DTP

ニシエ芸株式会社

印刷

柴坂徹也（TOPPAN クロレ株式会社）

特別協力

船の科学館「海の学び ミュージアムサポート」



執筆・撮影 (五十音順)

足立 文 (新江ノ島水族館)

伊藤寿茂 (相模川ふれあい科学館・アクアリウムさがみはら)

植田育男 (神奈川大学)

北嶋 円 (新江ノ島水族館)

崎山直夫 (新江ノ島水族館)

鈴木良博 (新江ノ島水族館)

萩原清司 (横須賀市自然・人文博物館)

西川湧馬 (新江ノ島水族館)

えのすい^{うみ}海のすかん
え^{しま}江の島むせき^{かいがん}ついで^{ずかん}海岸どうぶつ図鑑

2025 年 2 月 10 日 初版第 1 刷発行

編著・発行 株式会社新江ノ島水族館
〒251-0035
神奈川県藤沢市片瀬海岸 2-19-1
電話 0466-29-9960
URL <https://www.enosui.com/>

印刷・製本 TOPPANクロレ株式会社

©2025 Enoshima Aquarium
ISBN 978-4-9907871-1-0

Printed in Japan

本書の一部または全部を無断で複製、転載、複写（コピー）、スキャン、デジタル化、放送等の二次使用をすることは、著作権法上での例外を除き禁じられています。代行業者等の第三者による本書の電子的複製も認められておりません。

第一種動物取扱業に関する表示 事業所の名称：新江ノ島水族館 事業所の所在地：神奈川県藤沢市片瀬海岸 2-19-1 登録に係る第一種動物取扱業の種別：展示 動愛第 210512 号 登録年月日：2007 年 5 月 10 日 登録の有効期間の末日：2027 年 5 月 9 日 販売 動愛第 210513 号 保管 動愛第 210514 号 貸出し 動愛第 210515 号 登録年月日：2017 年 4 月 14 日 登録の有効期間の末日：2027 年 4 月 13 日 動物取扱責任者：白形知佳・崎山直夫